

岩礁

熊谷九寿

制作年：1986(昭和61)年

サイズ：97.0×130.3cm

材質：油彩、カンヴァス

所蔵：中津市木村記念美術館

1993(平成5)年中津市に寄贈される。



熊谷は穏やかな波とともに、激しく岩を洗う波も描きました。「岩礁」は特に後年描かれるようになったもので、それ以前にも海景は描かれていましたが、量塊として迫る岩と、潮音の轟きが聞こえてきそうな白波、身を寄せ合う孤独な海鳥の姿がクローズアップして描かれることで、自然の厳しさがより伝わるものになっています。熊谷と海のもチーフについて、次のような言葉があります。「熊谷さんが福井の海辺で、結晶した塩が烈風に舞い上る情景のすさまじさについて語った。聞いていた私は、これほど熊谷さんに打ってつけのもチーフはないと思いはしたが、しかしまたそれを絵にすることほどむずかしいことはない、などと話しあった。(中略)

自然の命、そのたくましさを描きつづけているのが熊谷氏だと、私は思う。あの滝の連作や波涛の海の絵が、それである。」(三宅正太郎「硬質の詩情 「夜桜」熊谷九寿作」三彩273号、昭和46(1971)年)「岩礁」はこの言葉より年月を経て描かれましたが、「絵にすることほどむずかしいことはない」としていた厳しい自然表現に熊谷が取りくみ、同じく中津市所蔵の「海」「波」そしてこの「岩礁」などを通して、「自然の命、そのたくましさ」を描ききるという問いに答えを提示してきたと言えるのではないのでしょうか。